



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2018～2019 年度クラブテーマ
会長 小林 博茂

「手に届く奉仕、目に見える奉仕」

● 本日の例会 2018 年 8 月 31 日 通算 1493 回 本年度 第 8 回

卓話：「ミネラルヘルス®で健活 ～仕事能力を高め うつ病を防ぐ～」
ホリスティックケアメディカルクリニック 院長 登坂 正子 氏

● 第 1492 回 例会報告 / 2018 年 8 月 24 日

出席報告：会員 58 名 / 出席 34 名 欠席 24 名

ゲスト：高瀬義昌（卓話）、富井美子、高堀壮健、
高堀雄一郎、高堀愛香

ビジター：橋本慎吾（福山赤坂 RC）、原 隆之（福山赤坂
RC）、村井美月（米山友愛 RC）、清水重雄
（東京西南 RC）計 9 名（順不同・敬称略）

卓話：「地域包括ケアの現状と課題

～超高齢化社会の日本で起こっていること～」

高瀬クリニック
院長 高瀬 義昌 氏



会長報告：

福山赤坂 RC 橋本会長、原幹
事がいらっしゃいました。
橋本会長よりご挨拶お願
いします。

「今回の災害ではご心配い
ただきまして、この場をか
りて厚く御礼申し上げます。頂きました寄付は災害の
酷かった三原市、福山市へ個別に寄付いたしましたこ
とご報告いたします。ありがとうございました。」

親睦活動委員会：（浅沼委員長）

9 月火曜会のご案内です。9 月 4 日の火曜会は、当
クラブ会員の河邊さんがお話くださります。相撲
界のウラ話ということで、前回の太田先生同様、楽
しいお話が伺えると思いますので、宜しくお願
い申し上げます。



8月 24日 14件 36,000円 累計 229,000円
多額の寄付を有難うございました。（敬称略）

福山赤坂 RC/小林博茂/石井謙次/金山驍/藤井万
博/西澤民夫/張宇/熊本誠司/長谷川毅/森本勝好/
石井達/木下京子/高山宇佳/大谷啓子

今後の予定 （対象者…全会員）	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
	9 月 7 日	12:30 13:30	37F アリエス ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話： メンタルサポート協会理事長 岡田 沙織 氏
	9 月 14 日	12:30 14:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	第 2 回クラブ協議会（ガバナー補佐訪問） テーマ：「出席率の向上について」
	9 月 21 日	12:30 13:30	37F アリエス ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話： 声優 水島 裕 氏
	9 月 28 日	12:30 13:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話： イニシエーションスピーチ 藤本 亮 会員

旬な話 『おわら風の盆の御話』

富山県には全国的に人気なお祭りがあります。あるサイトの日本の祭りランキングでは4位（1位：ねぶた祭（青森）、2位：阿波踊り（徳島）、3位：祇園祭（京都）に次いで）という程、人気があります。そのお祭りは『おわら風の盆』というお祭りです。この『おわら風の盆』は、富山県のおわらの里、八尾町で行われます。富山市八尾町は富山平野の南西部に位置して平野から飛騨山脈へと連なる街道筋の富山県と岐阜県の境にある町で、八尾の名称の由来は、飛騨の山々から越中側へのびる八つの山の尾に拓かれた地を意味するといわれています。おわら風の盆が行なわれる3日間(9月1日～3日)は、合計25万人前後の見物客が八尾町(人口約2万人)を訪れ、町は大変な賑わいとなります。この『おわら風の盆』は、いつ始まったのかは、明瞭な文献が残っていないためはっきりしません。

「越中婦負郡志」によるおわら節の起源としては、元禄15年(1702)3月、加賀藩から下された「町建御墨付」を八尾の町衆が、町の開祖米屋少兵衛家所有から取り戻した祝いに、三日三晩歌舞音曲無礼講の賑わいで町を練り歩いたのが始まりとされています。どんな賑わいもおとがめなしと言うことで、春祭りの三日三晩は三味線、太鼓、尺八など鳴り物も賑々しく、俗謡、浄瑠璃などを唄いながら仮装して練り廻りました。これをきっかけに孟蘭盆会(旧暦7月15日)も歌舞音曲で練り廻るようになり、やがて二百十日の風の厄日に風神鎮魂を願う「風の盆」と称する祭りに変化し、9月1日から3日に行うようになったと言われます。



『おわら風の盆』の名前の由来は

「おわら」とは一説では、江戸時代文化年間頃、芸達者な人々は、七五調の唄を新作し、唄の中に「おわらひ(大笑い)」という言葉差し込んで町内を練り廻ったのがいつしか「おわら」と唄うようになったというものや、豊年万作を祈念した「おおわら(大藁)」説、小原村の娘が唄い始めたからと言う「小原村説」などがあります。

「風の盆」の由来

二百十日の前後は、台風到来の時節。昔から収穫前の稲が風の被害に遭わないよう、豊作祈願が行われてきました。その祭りを「風の盆」というようです。また、富山の地元では休みのことを「ボン(盆日)」という習わしがあったと言われます。種まき盆、植え付け盆、雨降り盆などがあり、その「盆」に名前の由来があるのではないとも言われています。『おわら風の盆』の特徴は、3日3晩、街中を「踊り手」と「地方」(じかた)が揃って、踊っているところです。街中の踊り方法も主に3種類あります。

- ① 町流し：町流しは、「地方」(じかた)の演奏とともに各町の「踊り手」がおわらを踊りながら町内を練り歩くものです。この町流しが、古来からのおわらの姿を伝えるものとされています。
- ② 輪踊り：輪踊りは、「地方」(じかた)を中心にして「踊り手」が輪を作って踊るものです。
- ③ 舞台踊り：演舞場での競演会や各町に設置される特設ステージで見られる踊りで、旧踊りや新踊りを自在に組み込んで各町が独自の演技を披露するものです。

・「踊り手」について

主に未成年の男女が、着物と菅笠をかぶり、踊ります。この踊りの種類も3種類あります。

- ① 豊年踊り：古くから踊られる踊りで、種まきや稲刈りといった農作業の動きを手や指先を巻くように舞踊の要領で表現しています。男踊り、女踊りを「新踊り」と呼ぶことから豊年踊りは「旧踊り」と呼ばれることもあります。
- ② 男踊り：男性の舞台用として振り付けられた踊りです。日本舞踊の若柳吉三郎によって振り付けられ、素直で素朴な直線的力強さの中にしなやかさを持つ魅力的な踊りで農作業の所作を表した踊りです。
- ③ 女踊り：女性の舞台用として振り付けられた踊りです。「四季踊り」ともいわれ、画家であり俳人でもあった小杉放庵が八尾の春夏秋冬を詠った「八尾四季」のために振り付けられたのが最初で、その後夏の河原で女性が蛸取りに興じる姿を表した一連の女踊りが完成しました。

・「地方」(じかた)について

おわらに欠かせない役割を担っているのが唄と楽器で奏でる「地方」です。地方は「唄い手」「囃子」「三味線」「太鼓」「胡弓」をいいます。三味線が出を弾き、胡弓が追います。太鼓が軽く叩かれ調子を上げると囃子が唄を誘います。唄は甲高い声で唄い出し息継ぎなしに詞の小節をうねらせ、唄は楽器に比べ、楽器は唄に比べ、唄が終わると「合いの手」と呼ばれる楽器だけの間奏曲が奏でられます。唄の旋律とまったく違う曲を演奏することは民謡では珍しいことといわれています。

是非、9月の1日～3日に富山に御越し頂き、『おわら風の盆』を御鑑賞ください。
待とっっちゃ！（←とやま弁：待っています！ の意味です。）

(奥野記)

